

## 2008年度 立教 SFR 国際会議助成成果報告書 (A, B, C)

### 1. 会議概要

会 議 名	和文	アジア社会学は可能かーアジアにおける社会学の現状と展望		
	欧文	To establish the Asian Sociology: Symposium on the current status and prospects of sociology in Asia		
主 催	立教大学社会学部			
共 催	立教大学グローバル都市研究所			
後 援				
開催責任者	所属	社会学部	連絡先： 立教大学社会学部	
	氏名	木下康仁	Tel 03-3985-2312	Fax 03-3985-2833
運営事務局	事務担当者		連絡先： 立教大学社会学部	
	氏名	黄 盛彬	Tel 03-3985-4063	Fax 03-3985-2833
開催期間	2008年10月22日から2008年10月25日まで			
開催場所	太刀川記念館多目的ホール			
参加者数※1	学内	18名		
	学外 国内から招聘	3名		
	海外から招聘	10名	5カ国	合計 10名
公開講演会等 参加者数※2	①	年 月 日	名	カ国
	②	年 月 日	名	カ国
開催日程		午前	午後	夜
	第1日 10月 22日	事務手続き。発表者およびセッション・オルガナイザーによる打ち合わせ。会場設置、機器点検、案内や受付の準備。	研究科委員長挨拶、基調講演。 研究発表（セッション1）。	レセプション
	第2日 10月 23日	発表者およびセッション・オルガナイザーによる打ち合わせ。会場設置、機器点検、案内や受付の準備。	研究発表（セッション2） 研究発表（セッション3）	
	第3日 10月 24日	発表者およびセッション・オルガナイザーによる打ち合わせ。会場設置、機器点検、案内や受付の準備。	研究発表（セッションI I） 研究発表（セッションI II）	
開催経費総額	予算額	円	執行額	千円

※ 1 参加者とは、会議において講演、パネラー、コメンテーター等の活動を伴う者をいう。

※ 2 一般に公開された講演会等に聴講のために参加した者。講演者、パネラー等は除く。所要経費が60万円以上の会議で参加者がのべ100人を超える場合は、参加者名簿を添付すること。

## 2. 開催趣旨概要

本国際シンポジウムは、社会学部の創設50周年を記念して、企画実施された。『アジア社会学は可能かーアジアにおける社会学の現状と展望』と題し、内外の第一級の学者をお招きし、最新の理論と研究の到達点を確認し、その成果を発信した。加速するグローバリゼーションの流れのなかで、均質化と差異化が同時に進むこの地域における現状を、社会学を中心とした理論および方法論をもって、どのような学問的探究が行われているのかについて、「グローバル・マイグレーションと多文化コミュニティ」、「アジアの人口構成の変動と高齢化への対応」、「グローバル化と東アジアのメガシティ」、「越境するセクシャリティ/ジェンダー—メディアを通じた変容」、「文化のグローバリゼーション—ポスト・アメリカナイゼーションの行方」といった各セッションを設定し、議論を行った。

## 3. 国際会議の成果概要・今後の展望等

社会学部は、2006年度に社会学科、現代文化学科、メディア社会学科の3学科からなる新社会学部として船出した。学部としては、本シンポジウムを契機として、学部を構成する三つの学科がそれぞれの研究のコアを確認し、これまでの内外の研究成果を確認することを目標とした。この目標の達成を意識し、本会議の組織及び実施においては、なるべく多数の専任教員が関わり、また本学部内の研究のコラボレーションへの起爆剤となるように、各セッションに複数の学科の教員が配置されるように努力したが、こうした学部内における目標は一定の成果を挙げたように思われる。

次に、アジア社会に焦点を絞ったことは、1958年に創設され、日本の社会学研究のパイオニア的な役割を担い続けた本学部として、50年間に渡る研究と教育の到達点を確認する意味があった。もちろん、アジア社会学という領域は確立していないが、脱西洋化するアジア研究をとらえて、アジア社会学の可能性を提示できた。アジア地域に拠点を置く社会学者や欧米の日本及びアジア研究者を招聘し、シンポジウムを開催することによって、学部のこれからの国際化への方向を大きくアピールすることができた。今回、海外からの参加者は6カ国13名だったが、いずれも各セッションのオーガナイザーとの研究交流のある研究者であり、今後、国際会議や国際的な学術出版でも今回の国際会議で築かれたネットワークが生かされることとなるであろう。

国際会議の成果として、『国際シンポジウム アジア社会学は可能かーアジアにおける社会学の現状と展望 (英文 To establish the Asian Sociology: Symposium on the current status and prospects of sociology in Asia)』を、会議開催前に報告論文集 (Proceedings) として刊行した。また、ポスターやプログラムを各方面に送付し、学部のウェブサイトにも国際会議のページを特設するなどの広報を行った。

教育への還元という意味では、社会学部・社会学研究科の最先端の研究分野を総合した形で5セッションを組織し、各セッションに多くの学部生・大学院生が参加し、質疑応答にも積極的であったことを記したい。また、国際会議の実施運営に多くの大学院生が協力したが、学部としての国際会議組織におけるノウハウの蓄積だけではなく、協力した大学院生個々人にも国際的な学術会議を経験することによる教育的効果があったように思われる。

4. 会議の構成

(1) 学内参加者

氏名	所属・職名	会議における活動	内 訳
木下康仁	社会学部・教授	開催責任者およびセッション・オルガナイザー	文学 1名 経済学 1名
水上徹男	社会学部・教授	セッション・オルガナイザー	理学 1名
野呂芳明	社会学部・教授	セッション・報告者	社会学 18名
松本康	社会学部・教授	セッション・オルガナイザー	法学 1名
高橋利枝	社会学部・准教授	セッション・オルガナイザー	経営学 1名
高木恒一	社会学部・教授	セッション報告者	観光学 1名
奥村隆	社会学部・教授	セッション・オルガナイザー	コミュニティ福祉学 1名
是永論	社会学部・教授	セッション・オルガナイザー	現代心理学 1名
吉澤夏子	社会学部・教授	セッション討論者	ビジネスデザイン 1名
間々田孝夫	社会学部・教授	セッション・オルガナイザー	21世紀社会デザイン 1名
井川充雄	社会学部・教授	セッション・オルガナイザー	異文化コミュニケーション 1名
黄盛彬	社会学部・教授	運営事務局委員長及びセッション報告者	法務 1名 その他 ( )
以下事務局スタッフ			
福永真弓	社会学部・助教	運営事務局委員	
逢坂巖	社会学部・助教	運営事務局委員	
清水真	社会学部・助教	運営事務局委員	
香川めい	社会学部・助手	運営事務局委員	
本田量久	社会学部・助手	運営事務局委員	
水原俊博	社会学部・助手	運営事務局委員	
			計 18名
変更内容 (氏名、不参加/追加の別)			
野呂芳明、高橋利枝、高木恒一、是永論、吉澤夏子、井川充雄、逢坂巖、福永真弓、以上追加			

(2) 学外参加者 (国内、国外)

氏名	国名・所属・職名	会議における活動	内 訳
佐々木正道	日本・中央大学・教授	基調講演	国名 1名
ブレンダー・ヤオ	シンガポール・国立シンガポール大学・教授	海外招聘講演	日本 3名 英国 1名
アリソン・トキタ	豪州・モナシュ大学・准教授	海外招聘講演	米国 3名
デツデン・カシマ	米国・ワシントン大学・教授	海外招聘講演	韓国 2名
ハル・ケンディック	豪州・シドニー大学	海外招聘講演	香港 1名
カルヤニ・メータ	シンガポール・国立シンガポール大学・教授	海外招聘講演	シンガポール 2名 豪州 2名
任雪飛	米国・ミシガン州立大学・助教	海外招聘講演	
南基範	韓国・ソウル市立大学・教授	海外招聘講演	
魏然	米国・サウスカロライナ大学・教授	海外招聘講演	
伊藤剛	日本・武蔵野美術大学・講師	講演	計6カ国 13名
荻上千基	日本・批評家、ブロガー	講演	
李金銓	香港・香港城市大学・教授	海外招聘講演	
李相吉	韓国・延世大学・准教授	海外招聘講演	
変更内容 (氏名、不参加/追加の別)			
ブレンダー・ヤオ、アリソン・トキタ、デツデン・カシマ、カルヤニ・メータ、任雪飛、南基範、魏然、伊藤剛、荻上千基、李金銓、李相吉、以上追加。			